



広尾町立図書館

十勝は広い。とにかく広い。十勝と聞いて何を想像するでしょう？

十勝には海もある。港もあります。

つまり農産物だけでなく、水産物にも恵まれた地域です。港のある広尾町に行きました。

みんな大好きシシャモ、サケ、モガニ、ウニなどでんこ盛り。広尾昆布も忘れてはいけません。

昭和の時代、帯広から広尾まで広尾線が走っていました。幸福駅があった鉄道と言えご存知でしょう。当時、愛国から幸福への切符が大変売れたものでした。我が家にもどこかにありました。1987年廃止。広尾町はその終点。人口は6000人ほど。

今は帯広から広尾まで路線バスが2時間半以上かけて運行しています。約80キロ。ポピュラーな行き方です。広尾バスターミナルから徒歩15分ほどで図書館に行けます。

しかし私は相変わらずストレートな行き方ではなく、反対側から向かいます。日高の様似に行き、襟裳を通過して路線バスで広尾に向かいます。私が移動した日は週末だったので、1日1本しかないバス。様似を7:20に出発して広尾に9:12ぐらいに到着します。寝坊したら1日足止めくもらいます。

襟裳から広尾へ向かうには通称「黄金道路」という海岸線国道336号を走ります。以前、私はこのルートを通ったのですが、平成に入り災害対策事業としてトンネルが増え、海岸線ギリギリのスリルを味わうことはできなくなりました。

断崖絶壁の地形に道を通す。常に落石があり、台風の通り道、真冬の寒さとの戦い。江戸時代から計画していたようで1934(昭和9)年ようやく開通しました。莫大な建設費を費やしたことから「黄金道路」と呼ばれています。

様似から広尾町図書館に向かうなら終点の手前の広尾10丁目で下車するのがお勧め。下車5分で着きます。広尾町に限らず下車を町の中心や終点まで行ってしまふことが多く、図書館前を通過することもあったので、バスドライバーに聞いたりして最寄りのバス停で下車しています。町営バスなどはGoogle先生も解答してくれません。

以前図書館を訪問した時は静かにオルゴールのBGMが流れていましたが、再生機が故障したようで今は流れていません。あの雰囲気好きだったので復活して欲しいな。図書館は児童福祉会館との複合施設になっています。開館は1983年。内部を少しずつ改修して運営しています。

ところで、札幌琴似の久住書房が「中学生はこれを読め！」という企画を打ち出し、全道は勿

論全国でも話題になったので覚えている方もいるでしょう。2009年に市内大谷地に移転した久住書房は2015年閉店、店主の久住邦晴さんは2017年お亡くなりになりました。書店が入っていた琴似のメシアニカビルも近々老朽化で壊すことになりました。

当館では、その「中学生はこれを読め！」コーナーを今も常設しています。私が知る限り全道で現在も展開しているのは当館だけかと。2006年版の冊子による久住さんが選書したタイトルを揃えています。年月が経過しているのも既に書店で販売していないタイトルもありますが、絶版になった書物も当時のまま所蔵できるのが図書館の魅力。新たなタイトルを増やしたり減らしたりしていないそうです。なぜなら選書したタイトルは「中学生」に通用するから。

どんなタイトルが揃っていたか当時の久住書房に出入りした方なら覚えているかと。知らない方は是非広尾に行ってみてください。ここではタイトルを紹介しません。

広尾町は、サンタランドツリー点灯式が毎年行われています。サンタクロースのふるさとノルウェー王国オスロ市から国外初のサンタランドとして1984(昭和59)年に認定を受けて以来、「愛と平和、感謝と奉仕」の精神で行われているイベントです。

サンタランドジャズスクールのミニコンサート、アンサンブルグループ「奏楽(そら)」によるコンサート。クライマックスのイルミネーション点灯セレモニーではカウントダウンとともにスイッチが押されると、会場の森林公園内は一斉にイルミネーションが灯り、クリスマスムード一色になるようです。10月下旬に行われているようなので、チェックしてみてください。点灯はバスの時間で見られず。後ろ髪を引かれ次の町へ。

2021年10月訪問
加藤 重男